

## 第2回美濃加茂市総合計画審議会議事録

1【日時】 平成31年2月28日(木) 19:00~21:05

2【場所】 美濃加茂市生涯学習センター203号室

3【出席者】

(1) 議会委員：海道会長、杉山副会長、高木委員、糸賀委員、今村委員、澤田委員、高井委員、鈴木委員、深貝委員、安藤委員、鹿野委員、藤井委員、佐合委員、福田委員、西田委員、久保田委員、渡邊(明日香)委員

(19名中17名出席)

(2) 業務委託先：株式会社ぎょうせい2名

(3) 市長部局：経営企画部長、企画課長、その他企画課3名

4【概要】

(1) 会長あいさつ

(2) 配布資料確認

(3) 定足数確認 過半数を超えているため会は成立することを確認

(4) 報告事項 事務局から第1回審議会議事録について説明

(5) 協議事項 重要政策について協議

(○印=委員意見、 →印=事務局回答 以下同じ)

【健康増進について】

○医療関係の記載がない。社会保障費の抑制が課題になる中で、健康診断の実施率等予防の観点に着目したものが必要ではないか。

→全体を網羅できるような指標を考えたい。

○「85歳今も青春宣言！」より「健康寿命」を明記した方が、分かりやすくいい。

○審議会では最終的に何をどこまで決めるのかが不明。

→審議会としてはこれがいいというものを答申として決定していただきたい。その決定を最大限尊重した上で最終的には市長部局で決定、議会の議決になる。

○若者には85歳と言われてもイメージが湧かない。もっと全世代が健康について自分のこととして考えられるようなキャッチがいい。

○心の健康について成果目標の部分が弱いと感じる。就労世代や産後うつ等、心の健康に関する指標があるといい。

○体と心の健康は大事だが、「体」より「こころ」が先に来るのではないか。

○今の食文化から考えると今の若い世代の方が、病気になりやすい感じがして今後、医療費が増加につながるのではないかと感じている。

(多文化共生について)

○共に生きる「共生」に変えていくには、考え方の違いをもっと話したり、一緒に何か活動をしたり、互いの理解を深めなければならない。

○雇用する側である企業が、賃金に対する考え方をしっかりと考えていかないといけない

い。また、企業として受け入れ態勢を整備することも必要。美濃加茂市は他市と比較しても多国籍化が進展してきているので、もっと強く発信した方がいいのではないか。(例えば国際都市宣言のように)

○入管法の改正で外国人が流入してくることにより、主に企業に負担が大きくなってくるが、行政は企業と連携して体制整備をしないといけない。

○外国人のこどもは小学校で日本語を学べるのでいいが、親世代への教育で日本語教室などの教育環境の充実を図ったほうがいいのではないか。

○豊田市では、学校内で保護者に対しての日本語教室を行っている。こどもと一緒に日本語教室を行うこともある。そういった取組ができることは、理想的だと思う。

○外国人は、共稼ぎ家庭が多いので、日本語教室等へ参加すること自体が難しい。企業が時間的な補償をして、日本語を学べる環境を整えることも必要。

(女性活躍について)

※事務局説明 第1回審議会を受けて若者活躍についての取組を重要政策に追加、女性活躍と併せ「女性若者活躍」として提案

○「女性活躍」に「若者活躍」を追加するとのことだが、両テーマを一括りにすることには抵抗がある。どう取り扱うか慎重な議論が必要である。

○KPIに「若者の地元企業への就労意欲」とあるが、企業側の努力が重要になるので、行政が仲介し積極的に進めてほしい。

○KPIの設定について、若者や女性を取り上げることは結構だが、キャッチコピーに若者、女性を前面に出していくことは、いかがなものかと思う。

○女性が、もっと頑張らないといけないような印象を受けるが、現実的には、男性と同じ働き方はできないし、子育てに対する役割もある。そういった環境整備が必要であるし、子育て世代の意見もしっかりと聞かないといけない。

○M字カーブ(女性の労働力率)の解消を取り上げているが、出産や授乳等、女性にしか果たせない役割がある。一概に言うことはできないが、働く必要がなければ、一定の年齢になるまで子供と一緒にいる方がいいと思う。例えば、子供が3歳まで働かなくてもいいような制度があれば待機児童解消にもなる。重要政策が何を指すか分かりにくいこともあるし、M字カーブ解消を取り上げることは疑問。女性が働く、子育ても両立してやっていくというのは難しい。

○北欧では、女性が、出産、子育てから社会復帰するまでの体制整備が確立されている。行政が、すべきことのひとつとして会議において女性委員の割合を(制度として)高めることが必要である。

○人口目標達成に何を求めるのか。転入による人口増を目指しているのか、また出生数増加による人口増を目指すとして、それがどういうメリットをもたらすのか。

○個人的には、人口を目標にするべきではないと思う。人口増が市民生活を豊かにする訳ではない。例えば、サービスを提供することができなくなる理由が人で、そこを補うために人口を増やすということであれば分かるが。

○人口目標達成よりもその中身が重要。転入者が多い自治体が、まちとしても活発であると

他市町村の例を見ていて思う。そういった視点で目標設定する方法もある。

(防災・減災について)

- 美濃加茂市は、レッドゾーンが多い。親と同居している若い人が家を建てることができなくて、高齢化が進む。そこで災害が起こった場合どうするのか。消防団員にも、家を建てることができなくて太田、古井地区で家を建て地元の消防団へ通っているという現状がある。
- 現在3名の外国人が、消防団員として活躍しており非常にしっかりとやってくれているので今後も増やしていきたい。防災知識の普及や団員確保をしていく上で消防団だけの活動では限界がある。行政にはより一層注力していただきたい。
- 防災訓練を年に1回行っても防災意識は上がらない。各地区の防災訓練に小学生をはじめ幅広い世代の参加を促し、継続することで意識向上に繋げていかなければならない。
- 難しいことだが、防災減災においては「死傷者0」「被害0」を目指さなければならない。そういう意味でKPIについては、防災訓練の「実施率」ではなく「参加率」が重要。県では一人一人が避難するための避難カード作りの検証事業を始めているが、美濃加茂市も是非手を挙げてほしい。

(産業振興について)

- 農業に関しての記述が、少ないのが不安。美濃加茂市民の食料は市内で賅うぐらいの施策がほしい。
- 企業誘致によって地域活性に繋がっているまち(高崎市等)があるので、行政にはもっと情報収集をしてほしい。
- キャッチコピー、KPI、施策の整合性がとれていないため整理する必要がある。
- インバウンド効果の検証とは何を意味しているのか。  
→外国人観光客の正確な把握はできていないのが実情であり効果測定も含めて今後の課題である。
- インバウンドについては、もっと広い意味での言葉として捉えてみてはどうか。
- 外貨獲得、市内循環させることが市民所得の上昇につながる。企業が新事業に取り組む所に市が支援する、起業する人たちに支援する、今あるものに付加価値をつけていく事が重要。
- この地域の経済分析をした上での施策を考えていく事が必要。市内循環させることは大事だが、何故それがいい事なのか根拠がないといけない。

(都市整備について)

- 都市整備の中に農地の記載をするのであれば農業(農地)政策についてしっかりと位置付けないと農地転用を奨励していくと捉えられかねない。
- 都市整備は「医療」、「食」、「住宅の」が重要。これらをどう取り組んでいくのか、どう企業と連携をしていくのか将来的にどのようなイメージを作っていくのが重要。
- キャッチコピー「絶対消滅しない」という言葉は、市街地に限った意見だと思う。現実問題、北部地域は人口減少が進んでいる。そういった視点からこのキャッチコピーはどうか。もっと全体をとらえた言葉を選んだ方がいいのでは。

- 「防犯」についてもどこかに入れていけないのではないか。  
→重要政策は、集中して取り組んでいくテーマである。重要政策に明記がなくても市として取り組むべき事業は、基本計画以下に盛り込まれている。
- 空き家の利活用とあるが、市街地の空き家であれば店舗利用にすることができると思うが、市街地以外の空き家もどうしていくのか考えていく必要があるのではないか。  
→具体的な取組について今後検討していく。
- 重要政策に都市整備があること自体がどうなのかと思う。今の時代は整備する時代ではなく、維持管理が重要になっている。時代に合った言葉を使用した方がいい。

(全体について)

- 互助と共助の意味の違いが分かりにくいと思う。  
→元々は福祉の概念「地域包括支援システム」にある言葉で、まずは自分でなんとかする「自助」、隣近所の助け合い「互助」、社会資源の活用や支え合いの「共助」からきている。
- 6次総が、何を目標しているかがわからない。6つも重要政策があっては市として何がしたいのかがわからない。受け手側としてはそう感じると思う。重要と明記しているのであればその部分を前面に押し出すことが大事。
- 27の施策と記載してあるが26しかないがどうなっているのか。  
→提示したのは、現時点での案であり今後、詳細に詰めていく。施策数については、26に訂正

(6) 会長によるまとめ

様々な視点からのご意見をいただきありがとうございました。2回目でしたが、たくさんの意見が出てきた。ここからさらにそれぞれの重要政策テーマについて意見を深めていきたい。

(7) 事務局から次回の審議会の進め方の説明

今回は、審議会メンバーをグループ分けして、各分野で議論を深めていただく方法で行っていく。

※委員にグループ分け①「多文化共生・女性若者活躍」②「健康増進・産業振興」③「防災減災・都市整備」についての希望をとり、欠席者の希望と併せてグループ分けを行う(次回までに)

(8) 経営企画部長からあいさつ

## 5【次回開催日】

次回開催日は、平成31年3月26日(火)19:00~21:00とした。

以上